

「域学連携」プログラムで 遠野市のまちづくりと 沿岸地域の復興に貢献する

現代福祉学部、NPO団体、企業との連携で
広域的な地域づくりに取り組む

学部、大学院で地域づくりを専門的に学んだ後、出身地である岩手県の遠野市役所に就職し、現在は、観光関係の業務を担当しています。また、現代福祉学部と遠野市との域学連携事業「遠野プログラム」のサポートスタッフとしての活動も、業務の一環です。内陸に位置する遠野市は、東日本大震災による大きな被災は免れたものの、過疎化や点在する観光資源を結ぶ交通機関を充実させるなど、さまざまな課題を抱えています。そのため、遠野市と震災復興に取り組む岩手県沿岸地域、NPO、現代福祉学部、企業など

との連携により、広域でのまちづくりに取り組んでいます。そして今、「市内巡回ジャンボタクシー」の運行開始など、遠野市だけでは実現できなかった新たな観光インフラの整備も着々と進みつつあります。

学部・大学院での学びをフルに活かせる
まちづくりは私のライフワーク

学部入学当初、私の関心は心理学にありましたが、横断的に学ぶなかで得た新たな発見から、地域づくりを専門にして行政で働きたいと思うようになりました。そして、住民のために働く市役所職員という立場になった今、住民主体を原則とした

社会福祉の学びや、自他のところを理解する心理学など、学部と大学院でのすべての学びが役立つことを実感しています。遠野市民のなかには、地域活性化のために民泊を受け入れたり、飲食店や産直店を運営する起業家も増えています。みんながアイデアを想起させ、力を合わせて活気ある地域づくりを進めるなか、その一翼を担えることは、とてもやりがいのある、ライフワークとでもいべきものだと感じています。

専門性も深められる
カリキュラムは社会に
出たからの自信につながる

学びの幅が広いから集まる学生の関心も多様!
仲間から多くの刺激を受けました

菊池 恵美さん
2010年3月、現代福祉学部卒業。2012年3月、法政大学大学院人間社会研究科福祉社会専攻修士課程修了。2012年4月より岩手県遠野市役所に勤務。現在は、遠野市産業振興部商工観光課に所属。



児童養護施設という活気ある 小さなコミュニティで 子どもたちの成長を見守る

食事作り、掃除、洗濯に学校行事
ともに生活しながら子どもに寄り添う

「誰かがやらないと困る仕事をしよう」という思いを胸に就職活動をし、社会福祉法人至誠学園立川に就職してこの春で1年が経ちます。私は現在、同法人が運営する児童養護施設「至誠大空の家」の職員として、さまざまな理由により親御さんと一緒に暮らすことができないために施設で暮らす子どもたちの日々の生活を支える仕事をしています。食事作りや掃除、洗濯など、子どもたちが安心・安全に日常生活を送れるよう環境を整えることを大切にしています。そのほか、勉強を見たり、遊んだり、買い物に出かけるなどの関わりをもったり、学校行事・面談・保護者会に参加するなど学校とも連携し、日々、子どもの成長を見守っています。また、地域行事に参加したり、施設が所有する畑を介して地域の方々と交流を行うなど、“地域のな

かで暮らしている”という感覚も大事にしています。現代社会が抱える社会的課題が多岐にわたるように、ここで暮らす子どもたちが生きてきた背景も背負う事情も様々ではありません。自分が子どもたちや大人に対して何ができるのか、正解なき答えを模索する日々です。

専門的知識を受け、人との関わり場を
与えてくれた現代福祉学部の学び

大学では1年次に生活保護法による救護施設を見学し、3年次では重症心身障害者施設で実習を行いました。また、国内研修や選抜制の海外研修、東北での活動に参加したことで多くの地域を見、多くの方と関わることができました。そこで働いた人々の思い、そして日本にはみんなが幸せになるために動いている人がこんなに多くいるのだ、という気づきが私の感性を豊かに磨いてくれました。所属ゼミの小野

純平教授は、被虐待児童のこころのケアの専門家であり、ゼミでの学びも、現在の子どもたちのコミュニケーションの随所において活かすことができている。子どもたちが内面に抱える課題は、私たちが想像する以上に深いものですが、クラスメイトを施設に呼んで遊んだり、私たちとの触れ合いのなかで屈託のない笑顔を見せてくれることは何よりの励みとなります。これからも子どもたちのこころに寄り添いながら彼らの成長を見守るとともに、現代福祉学部で学んだ福祉・地域・心理の専門性やそこで磨かれた自分の感性を存分に活かして、このクリエイティブな仕事に邁進していきたいと思っています。

体験を通して得る
多くの引き出しは
課題解決力も高めてくれる



さまざまな場所へ赴き自分の五感で感じとる
そんなチャレンジができる学部です

石綿 奈々実さん
2013年3月、現代福祉学部卒業。2013年4月より社会福祉法人至誠学園立川「至誠大空の家」に勤務。現在、社会福祉士の資格取得に向け勉強中。



まちづくりと 地域活性のために 人・組織を結びつける

より良い多摩地域づくりに向けた プランを考えて実行する

私は現在、多摩信用金庫の「価値創造事業部」という部署の「地域支援担当」として、まちづくりや産業活性化、コミュニティづくりに取り組んでいます。地域住民が株主である信用金庫は、単に金融業務を行うだけでなく、「地域の活性化支援」を最重要課題に位置づけている金融機関です。営業店勤務時代に培った金融業務経験を活かし、現在では連携する自治体、NPO、企業、大学、地域住民の方々とお会いし、より良い多摩地域づくりに向けたプランを考えて実行することが私の業務です。立川や町田など大型都市を含む

多摩地域には30の市町村がありますが、なかには農山村のように高齢化と人口減少が課題となっている地区もあります。また、良いまちづくりの試みは数多く行われていますが、市町村間に情報ネットワークがないため、その成果が伝わりにくいという現状があります。


ゼミでのディスカッションで培った 「コミュニケーション・スキル」を活用

そこで私は地域内を周回しながら、各市町村やまちづくりに尽力されている方々をつなぎ、情報共有と協働の機会を創出するコーディネイト機能を担っています。その重要な使命を果たすうえで、現代

福祉学部で福祉・地域づくり・心理を横断的に学び、視野を大きく広げられたことが役立っています。また、さまざまな方々とお会いすることが仕事となった今は、実習やボランティア活動、さらにゼミでのディスカッションにおいて「コミュニケーション・スキル」を修得できたことが大きな財産になっていると感じています。多様な課題を抱える多摩地域ですが、その解決に向けて日々、一步一步、地域貢献のために足を運んでいきたいと思っています。

ボランティア活動、
実習が社会に出る基礎を
つくってくれる

現代福祉学部での学びは
仕事にどう活かされているのか
卒業生の「いま」を追う



現代福祉学部チャンネルへGO!



地域や現場から肌で学べるのが
現代福祉学部の魅力

酒井 克哲さん
2005年3月、現代福祉学部卒業。2005年4月より多摩信用金庫に勤務。現在は、価値創事業部地域支援担当まちづくりグループ調査役。

子ども目線をもった 社会づくりに向けて 新たなチャレンジをする

子どもたちが心身ともに健やかに 育つために必要な環境を学ぶ

1年生のとき、学部の掲示板で見つけた児童施設でのボランティアに参加しました。子どもたちと接してみると、多くのことを教えられたのは私のほうでした。「子どもたちがもっている力ってすごい——」、この気づきをいつか役立てたいと、在学中に独学で保育士の資格を取得し、卒業後、一般企業勤務を経て保育士に転職。今は保育士仲間と創設した「こどもみらい探求社」という会社で、「子ども目線をもった社会づくり」に取り組んでいます。未来を担う子どもたちが「心身ともに健やかに育つ環境」を学ぶためトレント視察にも出かけ、国としての子育て支援や親へ

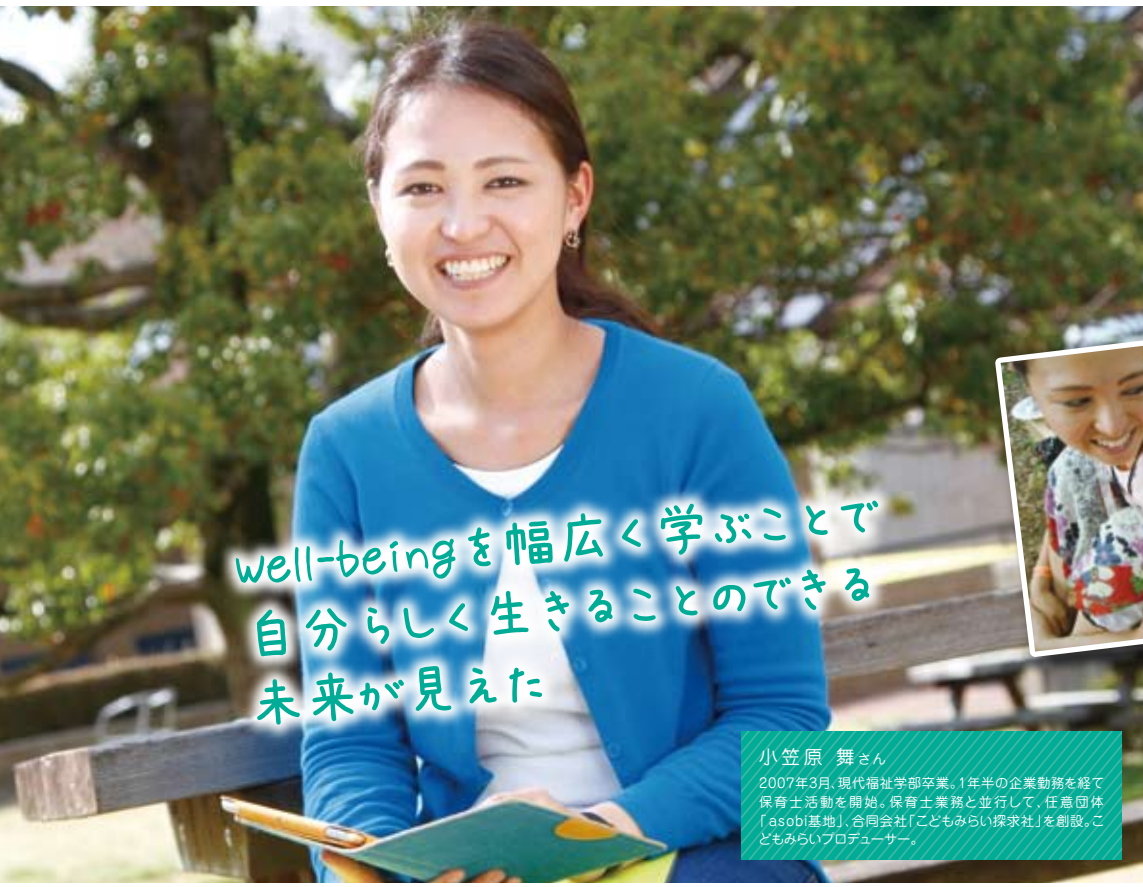
の子育てサポートの仕組みを実際に見に行き、地域社会による積極的な育児参加の現場も体験しました。

新たなコミュニティづくりを進め 課題の克服に向けて前進する

そこで現在は、親の抱える育児不安、孤立した子育て、親子コミュニケーションの向上を目指し、「大人も子どもも平等」というコンセプトのもと、保育士が中心となり、育児をする親同士が出会ったり、子どもたちが自由に遊び、親が遊び方を学ぶ「asobi 基地」というスペースづくりを行っています。また、企業や地域へ働きかけ、新たな子どもの育成環境づくりを進める一方で、子どもと触れ合い学ぶ機会の多い保

育士たちの、新たな活躍の場の創出・提供も行っています。点在する育児を巡る多くの課題を、一本の線としてつなげていくという見方を培ってくれたのは、複数の領域を横断して学ぶ、現代福祉学部での学びの成果です。また、コミュニティづくりやフィールドワークの手法、そして私の今の活動の原点ともなった施設ボランティア体験。それらのすべてがひとつとなり、今の私の活動をサポートしてくれていると感じています。

社会をより
素晴らしいものに
するために



well-beingを幅広く学ぶことで
自分らしく生きることのできる
未来が見えた

小笠原 舞さん
2007年3月、現代福祉学部卒業。1年半の企業勤務を経て保育士活動を開始。保育士業務と並行して、任意団体「asobi基地」、合同会社「こどもみらい探求社」を創設。こどもみらいプロデューサー。